

監査報告書

一般社団法人日本国際学生技術研修協会
理事長 太田 勝敏 様

令和3年4月21日
一般社団法人日本国際学生技術研修協会

監事

ち川 佐子

監事

渡辺博司

私たち監事は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方針に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

3. 付記

令和2年度は、コロナ禍にありながら研修を諦めなかつた派遣生及び協会関係者各位のご努力により、事業目的が可能な範囲で達成されたこと、同時に当期経常増減額が百万円強の損失に留まつたことを明記するものである。

一方で、派遣学生の増加策など根本的な問題の検討が急がれること、また、諸課題への対応を事務局長に依存する場面が多いことの2点を指摘したい。

以上